

[36] radix : 九州大学全学共通教育広報

<https://hdl.handle.net/2324/20401>

出版情報 : radix. 36, 2003-09-26. 九州大学教養部大学教育研究センター
バージョン :
権利関係 :

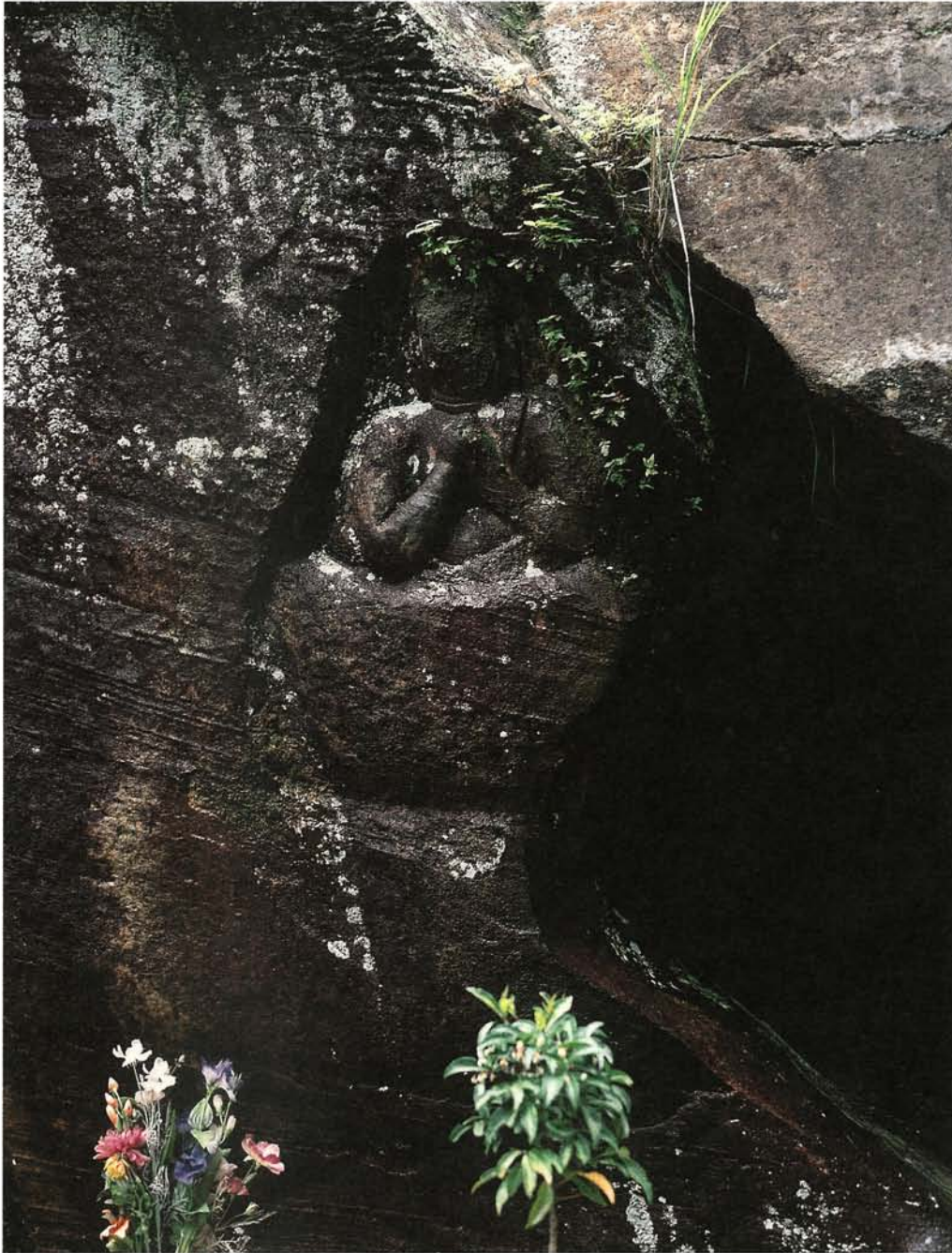


六本松探検

掲
示
板
大
調
査

プ
ロ
ジ
エ
ク
ト
シ
ラ
バ
ッ
ク
ス

4 2



鵜殿窟の石仏 撮影 安東 毅 (27頁参照)

radix

六本松探検

プロジェクト シラボックス

工学部 2年 ^{とく}徳 ^{なが}永 ^{しょう}翔
 法学部 2年 ^{やす}安 ^{たけ}武 ^{くみ}久美子

西暦1997年、選択授業の中身をもっと手軽に知りたいと思う学生達が、いた。大学はその年、インターネットによるシラバスを、作った。そして6年後、そのシラバスをもっと有効に活用するため、プロジェクト・シラボックスが動き出した！

まず、九大生を対象にアンケート調査を行なった結果、授業やシラバスについての意外な事実が分かったのです。そこで、実際に学生がどのように…



そろそろ用件を聞こうか…



…いいだろう…

は、はい！
 あなたには是非シラバスの問題点を突き止め、解決して欲しいのです！
 引き受けてくれますか!?

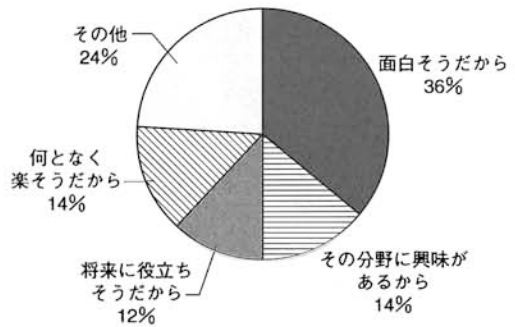
こうしてシラバスを徹底調査した結果、

●授業はこうやって選ばれる●

毎年4月と10月、学生はその学期の成績を左右するといっても過言ではない授業の選択に頭を悩ませます。では、学生はシラバスのどの欄を見て選択教科を決めるのでしょうか。

右上の円グラフからも分かるように、「面白そうだから」など、題名などから直感的に“候補”を決めるようです。

出たいと思う理由



授業選びの鉄則はズバリ!!

鉄則1：必須教科は楽しいかどうかなど有無を言わず受けなければいけないので、選択教科では、その反動(?)で興味があって楽しめる授業が好まれる。

鉄則2：教官は題名を工夫して学生の気を引かなければいけない。

- よい例ちゃ
- ・折り紙の数理
 - ・人間関係の科学
 - ・地球生命35億年の進化
 - ・古代ローマの食
 - ・歩いて歴史を考える など…

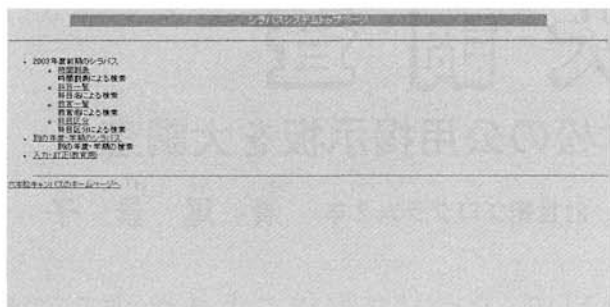


★ハイ提案！新シラバス★

現在九大には半期分だけでも850個もの多くのシラバスがあります。しかし、シラバスを利用している学生はなんと全体の半分！ 授業を決める参考になっていると答えた学生も約6割。シラバスって意外に利用されていないものなんです。

アンケート調査によると、シラバスのいい点として「授業に出なくても内容や成績評価方法が分かる点」「インターネットで見られる点」というのが圧倒的な意見でした。情報量が豊富で見たいときに見られて、

六本松探検



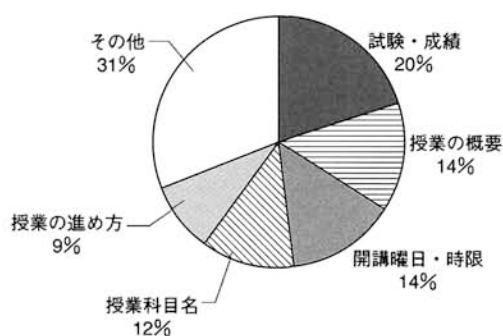
さらに手間がかからないという点はインターネットシラバスの非常にいい点です。

しかし、中には「科目によって、授業に関する詳細な事柄が書かれていなく、あまりにも抽象的すぎて役に立たない」という意見もあり、更に「パソコンが使えないので利用しにくい」「授業などで使えない時間が多い」という意見もありました。

確かに、家にインターネットを接続していない人はわざわざ学校に来ないと授業の詳細が分からないので、これでは不便です。

そこで、『全学シラバス』なる冊子を作って、『履修の手引き』と併せて学期の初めに配ることを提案します。ただ、インターネットの情報をそのまま載せるのでは電話帳並みの“冊子”になってしまいますので、下のデータを参考にして、重視される点を中心に新しくシラバスを作ってみるのはどうでしょうか。

シラバスのどこを重視するか



Let's シラバス探検♪

「ねえ、これから一緒にシラバス探検しにいかない？」

教官の一言コメントつきで教科書や推薦図書が載っていたり、資格・検定や関連サイト HP も載せてあってすぐにアクセス可能なシラバスなど、シラバスのバラエティーは豊富。シラバスをみるついでに練習問題ができるって自分の能力が試せて楽しいですね。自分がいかに勉強していないかもわかりますけど。

暇を見つけてシラバスをぶらぶら……☆面白い授業や知らない分野についての新たな発見ができるかもしれませんよ！

シラバスの鉄則はズバリ!!

「教官名、授業科目名、開講日時のほかには、試験・成績評価と授業の概要」を簡単にまとめるべし!

この鉄則で、シラバスをもっと的確にそして気軽に見ることができ、利用する学生も増えて期待にそった授業選択ができるのではないのでしょうか。

○月×日 ☆

今日はシラバスを勉強しました。
授業をベストに受けるにはシラバスの書き方とか学生の使い方をもっと考えなきゃいけないのかな? って思いました☆

☆ちょこっとアイデアメモ☆

シラバスを調査していて、いくつか気になった点がありました。中でも、授業の検索の仕方が少し不便だったような気がします。

現在、シラバスは「時間割表・科目一覧・教官一覧・科目区分」の4つのルートから検索できるのですが、新しく「学部・クラス別一覧」という検索の仕方を取り入れてはどうでしょうか!? 自分の学部・クラスを入力するだけで受講可能な授業科目一覧を見れたなら、今よりもずっと便利に使いやすくなると思いました。

六本松探検

掲示板大調査

迷う大捜査線，掲示板刑事が六本松の公用掲示板を大調査!!

21世紀プログラム2年 せい お けい こ
清 尾 景 子

●みなさん掲示板見てますか!?

「えっ掲示板って何？」なんてことを言う新入生もそろそろいなくなったとは思いますが、もう一度ここで確認。六本松キャンパスの公用掲示板とは、授業や定期試験、休講通知、授業料の納入や奨学金についてのお知らせなど、学校と学生をつなぐ重要な情報を日々掲示している神聖な場所なのです。毎日チェックしないと、自分だけ履修の登録が出来ていない、という恐ろしい事態になる可能性も…。掲示板を侮ることなかれ!

●掲示板の仕組みは？

掲示板の重要さは先に説明しましたね。しかしながら、六本松の掲示板は一筋縄ではいきません。ここで、掲示板の仕組みを少しだけ紹介しましょう。

六本松キャンパスの掲示板は、六本松キャンパスにある事務の掛ごとに区分けされています。

その1 教務掛：履修や授業のクラス分け、試験などの情報について掲示。簡単に言えば、私たちの日々の授業や勉強に関する情報があるということだ。

その2 学生掛：授業料の納入や、各種奨学金について、その他様々なお知らせなど、私たちの学生生活に関する情報がある。

このほかにも、アルバイト情報を載せた掲示板など、六本松キャンパスにはまだまだ掲示板が存在しています。さあ、自分の目で新たな掲示板を発見してみましょう。

●しかしながら…。

筆者は現在2年生（と呼ぶにふさわしいかはいささか疑問）です。次第に友人同士のネットワークが形成され、掲示板並みに色々な情報が自然と回ってくるようになります。しかしながら、筆者の周囲には情報の見落としを覚悟の上で掲示板のチェックを怠るものが続出しています。そこで、そんな学生の本音に迫ってみることにしました。

●学生発、「掲示板ってさ、」

ここでは、実際に六本松の学生に突撃調査して得られた、掲示板に対する意見を載せています。

○掲示板の良いところ

- ・電子掲示板で、緊急の情報を見られるところ。掲示板まで行かずに済み、しかも情報の種類が限られているので見やすい。
- ・情報の種類によって場所を変えてあるところがよい。



掲示板の掲示物は「全学教育関係」等の見出しがあるが、遠くからでは小さくて分かりにくい。

六本松探検

○掲示板の問題点

- ・情報の分け方が、分かりにくい。同じ種類の情報が、全く別の場所に掲示されていることがある。
- ・掲示板のどこを見たら、自分に関係のある情報が掲示されているのかわからない。(この意見は、特に1年生に非常に多かった。)

○掲示板への提案

- ・学部ごとに、「○○学部」はここを見ればよいという様に、もっとはっきりと分けたらどうか。
- ・(先の提案に関連して)情報の種類を表すもっと大きな表示板をつけると分かりやすくなるのではないか。
- ・掲示物に関係する学年や、掲示した時期ごとに、用紙の色を変えて欲しい。
- ・公用掲示板の詳細を書いた、地図を作って欲しい。

●おわりに

学生生活のなかで、掲示板自体を意識することはあまりないかと思いますが、少し調査をしてみるだけで、この記事には書ききれないほどの様々な意見が学生から出てきました。また、福岡市内の他大学の掲示板の調査に行ったところ、実際に九大の学生から出された意見が実践されている大学や、掲示板の下に踏み台がついている大学があり、個人的にとっても感動しました。

学生が掲示板を活用しない理由として、「見にくいから」という声が非常に多く聞かれました。しかし、六本松キャンパスには学生の意見を取り入れようとするシステムがあります。事務室に行くボックスがあり、掲示板に限らず、私たちが意見することが出来るのです。見にくいという理由だけで、掲示板をおろそかにするのではなく、あなた自身の手でその事態を変えようとする一歩をふみ出してみたいはいかがでしょうか。大学の主役は、私たち学生なのですから。



西南学院大学の掲示板。大きく学部、時間割、語学関係等に分かれており、見やすい。



六本松キャンパスにて。あなたはどんな掲示板にしたいですか。



金曜・天神ナイトライブの一提案

～金曜日・路上の出会い～

法学部4年 ^{まつうら}松浦 ^{あつし}篤

——「♪Darling! Darling! Stand by me. Stand by me…」軽快なTalkとともに、ストリートミュージシャンの心地よい歌声が響く。歌声に誘われてたくさん人が集まっている。「今夜は遊ぶぞ～!」「でもその前にちょっと寄ってみました～!」風の女子大生。ギターをかついで「俺も唄ってるんす。いい声してますよね」って感じのバンドマン。一杯飲んで赤ら顔、やけに上機嫌のお父さん。「今夜は、ひさかたぶりのクラス会なの。主人も息子もうちにおいてきちゃった。ふふふ…」少し若返った主婦のみなさん。老若男女を問わず、誰もが気まぐれに立ち寄っては歌と喋りを楽しんでいく。そんな、出会いと別れを繰り返しながら、天神の夜は更けていく。——

「みなさ～ん!遊んでますか?」いきなり何だと思われるかも知れません。ただ、タイトルにもありますように、金曜日の夜を楽しむひとつの方法を紹介したいのです。ウィークデイのハードな日々を乗り切り、スキッと気分を変えたいと思うのが、金曜の夜ではないでしょうか(中には、土日でも研究や実験という方もいらっしゃるでしょうが)。コンパ・カラオケ・クラブ・キャンプ・釣り・暴飲暴食…。いつもの仲間と、いつもの場所で、いつものことをするのもいいでしょう。ただ、普段とは少し違ったりフレッシュをしてみたいかがでしょう。

今回は福岡市天神の新天町にあるタカチホカメラ前で歌っているストリートミュージシャン・てのひらさん(23)と過ごす夜を紹介します。ストリートミュージシャンというと、ギター1本抱え、1人もしくは数人で声を張り上げている人たちを想像しませんか?彼は違います。気さくな性格、伸びのある声、カスタネット、鈴、フルー



トなどなど次から次へと出てくる楽器でたくさんの人をとりこにしています。相棒のkamaさんとの絶妙なTalkや、仲間のアーティストの方々による飛び入りセッションなども盛りだくさん。お客さん同士の交流も。どうです! ちょっとのぞいてみたくありませんか?



それでは、以下ではてのひらさんの現状として、簡単なストリートミュージシャンとしての活動記録と、それ以外の多彩な活動を紹介します。彼のパフォーマンスの幅広さに隠された秘密を垣間見られますよ。次に、彼がどこに向かって行こうとしているのか、未来のビジョンを語ってもらいます。最後に、活動場所の地図と連絡先等を記載しますのでチェックして下さい。(現在の活動状況)

ストリートミュージシャンとしての活動略歴

- ☆福岡市西区今宿の商工会祭りストリートミュージシャンコンテスト 《優勝》
 - ☆ベイサイドプレイス博多埠頭・ストリートミュージシャンライブ出演
 - ☆FMmimiのミミコミに出演。生電波で熱唱
 - ☆中村学園大学・学園祭『霜月祭』にkamaさん・恋豚3号さんと共に出演
 - ☆NHK「おっしょい福岡」に出演
- どうです? 大会やイベントから、マスコミまで幅広い活動をされています。



ストリートミュージシャン以外の活動



路上でのアマチュア活動だけではなく、プロとしての顔もあります。まずは、ちんどん屋としての顔。福岡市中央区黒門に事務所のある、ちんどん屋の会社にフルート奏士として所属。以下の写真は、唐人町での活動の様子。他にMCとしての活動がある。イベント・ライブ・子供向けステージなどで活躍。例えば2000, 2001, 2002年秋の福岡県の子育てイベント『すくすくフェスタ』メインステージのMCがあります。

以下は、唐人町での活動の様子。他にMCとしての活動がある。イベント・ライブ・子供向けステージなどで活躍。例えば2000, 2001, 2002年秋の福岡県の子育てイベント『すくすくフェスタ』メインステージのMCがあります。



(今後の動き)

現在の活動を続けながら、ラジオのDJを目指す。中高時代、ラジオを聞いて過ごし、流れてくる“音楽”と“喋り”に魅せられていった。現在、“音楽”と“喋り”に関わる仕事として、MCやちんどん屋をやって

いる。「ラジオを聞くように路上ライブを楽しんで欲しい」という彼のメッセージが、彼の方向性を一番よくあらわしているのだろう。彼の“音楽”と“喋り”が電波にのり、私たちの部屋まで届く日も、それほど遠くない未来なのかもしれない。

(活動場所と連絡先)

活動場所は、以下の地図の“●”の場所です。金曜日の夜9時以降に行けば確実に出会えるはずですよ。

次に連絡先ですが、以下のURLをチェックして下さい。彼のメールアドレスや、活動の詳しい内容、掲示板等が記載されています。仲間の路上ミュージシャンの方々がもつホームページへのリンクから、リクエスト可能歌のリストもあります。例えば、スターダストレビュー「Simple Song」、花*花「ずっと一緒に」、木の実ナナ/五木ひろし「居酒屋」など。その他、オリジナルの曲もあります。ホームページでチェックしてから出かけると、より楽しめるのではないのでしょうか。

http://members.tripod.co.jp/tenohira_style/tenohira_style_side_top.html



(終わりに)

radixのような学内誌で「てのひらさん」を紹介した理由を述べることで、結びに代えさせていただきます。それは、私が学生時代大切に考えてきた2つのことを、てのひらさんを通じて、もう一度考えてみたかったからです。まずは、自分の好きなことと、未来の自分の姿を結び付けて考えるということ。てのひらさんは、中学・高校時代から好きだったことを、今でも追いかけています。子どものころ惹かれたものには、自分が本質的に惹かれるものに何かしら通ずる点があるはずですよ。「自分が惹かれていたものは何だったか？」を問い続けることは、自分らしく生きるためのヒントになると思うのです。

(15頁へつづく)

第47回 田島寮祭

法学部2年 ^{ながやま}永山 ^{よしたか}由高

§ 実行委員長の大役を終えて

寮祭を考えると、その47年という歴史を思わずにはいられない。九州大学田島寮は、半世紀の長きにわたり寮祭を・樽神輿を行ってきた。今年、自分が実行委員長としてその寮祭に携わることができたことを本当に嬉しく思っている。

田島寮祭は、年々その形を変えながらここまで受け継がれてきた。A・B・Cの各棟が、本祭である樽神輿における神輿・ふんどしの色を決するために5月末から様々な競技を行い、1位の棟に与えられる赤色のふんどしを争奪する現在の形がはじまったのは20年ほど前からとのことである。

今年は5月25日の駅伝大会を皮切りに、各種スポーツ大会・かくれんぼ大会・麻雀大会など20種目で競い合った。A棟・B棟・C棟がそれぞれ団結して闘い、結果として今年の赤色ふんどし、通称「赤ふん」はB棟が獲得した。2位「青ふん」のA棟、3位「黄ふん」のC棟も僅差で続いた。そして、去る6月28日にそれぞれの色のふんどしを締めて樽神輿をかつぐこととなった。



重さにして約800kgあるとされる樽神輿を担ぐのは1年生であり、その上に乗り1年生を鼓舞するのは2年生の実行委員である。僕自身も実行委員長として赤・青・黄の三色の樽神輿の上に乗った。壮観であった。去年は自らも担いだ樽神輿、その上に広がる景色

はまさに最高だった。歴代実行委員の先輩方が流した涙に触れた気がした。18歳を過ぎた若者がふんどし姿で天神の街を練り歩くこと、それは馬鹿なことに見えるかもしれない。しかし、馬鹿になって初めて見えるものがある。そのことを痛感した。



田島寮といえば男子寮であり、その激しさ・猛々しさは周知のところであろう。その氣勢・覇気は昔と比べると変わることなく連続と受け継がれているものと考えられる。しかし、田島寮を取り巻く周囲の環境はというと、高層住宅に囲まれた現在、大きな変化を遂げつつある。田島寮に於いて行われる2回の主要行事である新入生歓迎行事と寮祭にも、その変化の波は確実に波及しつつある。それらの変化と向き合い、反発しあうのではなく地域と融和していこうという立場から、今年の寮祭では、新たに地域の住民を招いての夏祭り「寮涼祭」を実施した。今年が第1回であるにもかかわらず3時間で250名以上ものかたにお越しいただき、大成功を収めることができた。地域といかに関わっていくべきかということは今後もひとつの課題として残るだろう。

47名の実行委員とともに寮祭を作っていく上で、先輩たちに伝えられるものは全て伝えた。糸島地区移転に伴い、田島寮もあと数年でなくなることが予想されるが、今後も様々な変化をもちつつ、この熱き伝統の行事が続いていくものと信じている。

農学部2年 ^{やまだ}山田 ^{ひでみち}英道

§ 樽神輿局局長を務めて いい神輿だった。それが本祭当日を振り返っての私の正直な感想だ。雨に打たれながら神輿を担ぐ1年も、それを全力でサポートする2年もOBも、みんなひたむきな顔をしていた。あの熱気を、忘れることはないだろう。

私は静岡からここ福岡にやってきて、田島寮に入寮した。自分で認めるのぼせ者で、来たその年から土居流大乘寺前町の若手として山笠に参加させていただいている。寮祭をするにあたり、いろいろと迷うところはあったけれど、最後には自分の意思でしたいと思い、局長に手を上げた。寮祭を無事終えた今、私は山笠に向けて気持ちを入れ替えているが、ここ田島寮での経験が、山笠においてよい糧となるということをかねてから思っている。詳しく説明しようとするのが難しいのだが、熱い男たちがなんやかんや言いながら何かを作り上げていくその過程が、共通点を生み出しているのだろう。

樽神輿は赤・青・黄の3台があり、赤が最も名誉ある神輿である。赤ふんを締めてその神輿を担げる人間は全体の3分の1で、それをめぐって約1ヶ月間の熱い戦いが繰り広げられた。当日、神輿の上に乗ってそういう背景を思い浮かべたとき、思わず胸が熱くなった。

先代の局長が、「樽神輿局員は義を重んじろ」とおっしゃった。絆は強く、ここ一番で堅気なよい仲間恵まれ、先輩方のご期待にも添うことができたと思う。そして私たちが後輩に何を伝えられたのか。その成果が問われる来年を、楽しみに待ちたいと思う。

工学部2年 ^{せお}妹尾 ^{まさなお}昌尚

2003年6月28日(土)、降りしきる雨の中、九州大学田島寮の1年生はふんどし一丁で樽神輿を担ぎ天神の町を練り歩きました。みんな普通の人です。いや正確に言うならば「であった」というべきでしょうか。大きなビルの立ち並ぶ繁華街をふんどしで神輿をかつぐ…こんなこと普通じゃあできないと思うのです。その時、私は「この1年生達はみんなほんまに『田島寮生』になったんやなあ」と感じました。

去年、私は1年生としてこの田島寮の寮祭に参加しました。その時は無我夢中で何もわかりませんでした。しかし今年、2年生として寮祭を運営し、1年生をサポートする立場となり、この寮祭の1ヶ月を通じて1年生達の顔を見てみると本当にみるみる『田島寮生』のそれへと変わっていき、確実に成長しているのを感じ取ることができたのです。これほど嬉しいことはありません。この田島寮でしか味わえない喜びが47回にもわたる寮祭の伝統を築き上げてきたのだと確信しました。この喜びをいつまでも引き継いでいってくれることを祈りつつ、まだ見ぬ未来の寮生へと託したいと思います。

(情報宣伝局局長)

理学部1年 ^{たぐち}田口 ^{こうき}晃樹

1ヶ月にもわたる寮祭も終わった。今思えばあっという間の1ヶ月だった。各ブロックごとにサッカー、バスケ、ゲームなどを競い合い、その中で協力し強い絆を築きあげてきた。そしていよいよ迎えた本祭での樽神輿、1年生全員が一致団結し声を出し神輿を担いだ。雨の中ふんどし一枚で田島寮までの5キロにも及ぶ道のりを歩き、寮にたどり着くころにはみな肩が真っ赤に腫れていた。みな泣いていた。言葉に出来ない思いが湧き上がってきたに違いない。田島寮に入って早3ヶ月、この寮祭を通して得た熱い思い、友との絆をこれからも大切にしていきたい。本当にいい寮祭であった。

(第101期寮長)

サークル紹介

ワークキャンプ

工学部 2年 ^{しんかわ}新川 ^{ゆうすけ}裕介
工学部 2年 ^{あべ}安部 ^{ひでき}英輝

私たちワークキャンプは、九州大学・九州産業大学・西南学院大学・西日本短期大学・福岡女子大学の5大学合同で活動しているボランティア・サークルです。現在は130名程の学生が所属しており、5つの研究会に分かれて、重度心身障害者病棟・肢体不自由児施設・児童養護施設・知的障害児施設を訪問したり、在宅障害者とその親の会と交流したりしています。

これから、別々の研究会で活動をしている私と安部君の、それぞれの活動について述べたいと思います。

私は知的障害児の入所施設を毎週訪問して、幼児から高校生までの知的障害を持つ子供たちと遊んでいます。そこでは、その子その子に合わせて様々な遊びをしています。屋外では自転車を乗り回す子供を追いかけたり、野球やサッカーをしたり、砂遊びをしたり、ブランコなどの遊具で遊んだり。屋内ではアニメを見たり、おもちゃで遊んだり、おしゃべりをしたり。3時のおやつの中には、食事介助が必要な子供の世話をしながら一緒に食べたり、そうでない子供とは普通に一緒に食べたりしています。福祉ボランティアというよりは、単に子供と遊んでいるだけといった感じです。とは言っても、私たちが接している子が障害を持っているのは事実で、その子に対する注意点やその子のために私たちは何ができるかなどに関しても深く考え、時には施設の職員に相談しながら、子供たちにとってプラスになれるように努めています。あと、私たちの研究会はクリスマス会などを企画して養護学校の子供たちを招待して楽しんでもらったり、知的障害児の通園施設の遠足に補助として行ったりと、幅広く活動しています。私は彼らと共に過ごせる時間を大事にし、その時その時をお互い存分に楽しめるような活動をしています。(以上、新川)

私は古賀市にある国立療養所福岡東病院重度心身障害者病棟いずみ病棟に月2回訪問しています。訪問時には、入所者と話をしたり、塗り絵をしたり、散歩に



出かけたりと楽しい時間を過ごしています。また、自分で食事を出来ない方に、私たちは食事介助を行っています。本当においしそうに食べる入所者の皆さんの顔を見ていると、それだけで満足している自分がいます。私が一番好きな時間は「あそび」という学生が考えたレクリエーションをする時間です。普段おとなしい方もこの時間はハッスルしたり、満面の笑みを浮かべたりと毎回新しい発見があるからです。この笑顔が見たいからこそ「あそび」を行っているといっても過言ではありません。話したり、歩き回ったり出来る方はごく少数です。しかし、私たちが話しかけると目で合図してくれたり、うなずいてくれたり、何らかの形で意思表示してくれます。何かと単調な毎日に刺激と元気を与えてくれるからこそ、私は訪問を続けているのかもしれません。まだ訪問を始めてから1年ですから、これからも新しい発見があることでしょう。これからも大好きな“いずみ”と共に私は学生生活を続けていこうと思います。(以上、安部)

「ボランティア」と聞くと少し避けがちになる人がいますが、私たちの活動を一度体験してもらえれば、その虜になること間違いなしだと思います。私たちとその楽しさを共有したい人はいつでも大歓迎しますので、遊びに来て下さい。

軟式野球部

工学部3年 いまむら 今村 しんや 信也

司会者：さあ、今日も九大部活動紹介の時間がやってまいりました！ 今日紹介する部活はこれ！ 九大軟式野球部です。

ゲスト：これはどういった部活なんでしょうか？

司会者：この部活の売りはなんとと言っても『部活なのに練習が週1』というところです。

客一同：おおー！

司会者：週に1回、土曜日だけの練習なので勉強はもちろん、バイトとの両立もできます。しかも、週1だからといって練習がおろそかになるということはありません。少ない時間の中だからこそ集中した練習ができます。

客一同：おおー！！

ゲスト：大学から野球を始めたいけど部活はちょっとという方もおりそうですが…。

司会者：もちろん心配ございませぬ！ 上下の壁のない先輩たちが優しく教えてくれるので、野球が好きという方ならすぐとけこめます。今こちらにこの部活に入っておられるIさんがいらしています。

Iさん：自分も野球に関してはまったくの初心者で、いきなり部活で大丈夫だろうかと少し不安でした。しかしいざ入ってみると、本当に先輩たちは温かく、熱心に教えてくれました。初心者の人でもぜんぜん平気です。軟式野球部サイコー！

ゲスト：これなら心配なさそうですね。

司会者：実際今いる部員総数50人のうち、半数が大学から始めた人ですからね。

客一同：おおー！！

司会者：主な大会は春季リーグと秋季リーグで、春季で8大学中1位になると愛知での全国大会、秋季で上位3位までに入ると西日本大会に出場できます。今年の春季リーグの成績は、なんと！ 3位という成績を残しております。惜しくも全国大会出場は逃しましたが、来年こそは必ず手にするでしょう。

ゲスト：ちゃんとした目標があるから引き締まったよい部になるんでしょうね。

司会者：さらに！ 部活動以外でも活動しており、秋には学祭で催し物、冬にはスキー旅行にも行きます！ 去年の学祭では坦々麵の屋台を出しました。

ゲスト：へえー、やっぱりそれらを通して部の結束も強まり、一丸となってプレイできるんでしょうね。上下の壁がなくなるのもうなずけますね。

司会者：しかもなんと！ 今ならマネージャー9人ついできます！

客一同：おおー！！！！！！

ゲスト：これは絶対決まりですね！

司会者：さあ、あなたもぜひ軟式野球部に足を運んでみてはいかがでしょう。ハッピーな大学生活間違いなし！



世界・日本

初めてのドイツ・インターンシップ研修

Andreas Kasjan



ドイツ語担当のハーゼ先生と一緒に



ゲンベル・ギムナジウムの生徒と一緒に昼食

去年の8月に、言語文化研究院で開発された「3D-IES」という遠隔授業用のソフトの国際化に取り組むためにドイツのレムゴ市にある「エンゲルベルト・ケンペル・ギムナジウム」という学校を訪れた。人口4万人くらいのレムゴ市は、1690年来日し『日本誌』を著した外科医・博物学者ケンペルの故郷であり、このギムナジウム（5年生から13年生までの9年制教育機関）では、日本語が教えられている。

日本語担当のテュナーマン教諭とDr. プラートフォーゲル校長に「3D-IES」のソフトを紹介した後、今度は両先生がレムゴにおける日本人学生向けインターンシップを提案して下さった。私はすぐにこの提案に賛成し、2003年の3月に九州大学の学生をレムゴに引率することを約束した。というのも、ドイツへの研修旅行は多くの大学で実施されているものの、インターンシップのある研修旅行はまだないからである。旅行のアレンジに関しては、あっという間に両先生と合意に達した。4週間のレムゴ市での滞在はホームステイとし、最初の1週間はドイツ語講座、残りの3週間にはインターンシップを設けた。更にインターンシップ先は、学生が選択できるようにした。

レムゴから日本に帰ってきた後で、私は昨年度の後期の初めにこの旅行を学生に紹介したが、準備期間が短かったために、旅行の申請者は少なかった。更に、

ご両親の了承を得られずに、旅行への申し込みをキャンセルせざるを得なかった学生もいた。最終的に、ドイツでインターンシップを志す学生が5人残った。その学生は工学部、理学部と医学部に属し、1年生4人と2年生1人であったが、彼女たちはドイツ語を1年間しか勉強していない。そのため去年の12月から、私たちは毎週1回ドイツ語とドイツ事情の特別授業を行った。

旅行の準備は業者に頼らず、全て学生と一緒に実施した。インターンシップのためにビザも必要だったが、日本とドイツの間には「ワーキング・ホリデー」という協定があって、30歳以下の日本人が短期間の就業許可を得られる簡易手続きが設けられているので、参加者全員が無事にビザを取れた。ドイツへ出発する1ヶ月前には、学生たちとホストファミリーはドイツ語による文通をしていて、皆ドイツから温かくて長い手紙をもらったので、ホストファミリーとの出会いを楽しみにしていた。

今年の3月1日の夕方に、私たちはドイツのフランクフルトに着いた。この夜はフランクフルトのユースホステルに泊まった。夜はサクセンハウゼン地区でフランクフルトの名物を学生に紹介したが、残念ながらリング酒や「屠殺物の盛り合わせ」や「ハントチーズ」は学生の口に合わなかった。翌日は鈍行や快速でレム



自動車の修理工場でのインターンシップ



幼稚園でのインターンシップ

ゴから8キロ離れているラーゲ駅へ向かった。電車を3回乗り替えて、6時間の辛い旅はやっと終わった。ラーゲ駅ではホストファミリーとチューナーマン先生に温かく迎えられ、旅の苦しみは和らいだ。

最初の一週間は、月曜日から金曜日まで学生は「ケンペル・ギムナジウム」で毎日3時間のドイツ語講座を受けた。放課後には、「ケンペル・ギムナジウム」で実施された日本語授業を参観し、街とその周辺を見学した。私たちは「エーベン・エーツァー基金」という精神障害施設や「イスリングハウゼン社」という自動車椅子メーカーや「ヴェントリングハウゼン城」という有機栽培農家を訪ねた。また、市長さんとの2時間ほどの話し合いの席にも恵まれ、学生たちはそのチャンスを利用して街の行政に関する質問をたくさんしたのである。

2週目からインターンシップが始まった。学生は皆自ら希望した分野のインターンシップ先で月曜日から金曜日まで、毎日8時間程自習したり働いたりした。今回のインターンシップ先は自動車の修理工場、時計屋、保育園、幼稚園と小学校であった。インターンシップ先での日常会話はほとんどドイツ語だけであった。インターンシップの最初の一週間は、言葉がわからずに苦しむことがもちろんあったが、その苦しみは徐々に和らいで、2週目になってからは、学生は言われたことを理解できるようになって、3週目からは自分の意志もある程度伝えることができるようになった。「このインターンシップ体験は非常に面白くて、勉強になった」と参加者が日本に帰ってきた後でレポートに書いている。

レムゴでのインターンシップ・研修が上手く行ったのは、ホストファミリーの方のおかげである。温かい家族が支えてくれたので、学生はインターンシップ

先で頑張れるようになった。週末には、ホストファミリーが学生をレムゴ市内や周辺にある観光地やオペラに連れて行くなど、学生が楽しく過ごせるように一生懸命努力してくれた。例えば、ホストファミリーの学生と年の近い若者が夜、学生を飲み屋、ディスコやハンドボールの試合に連れて行ってくれた。

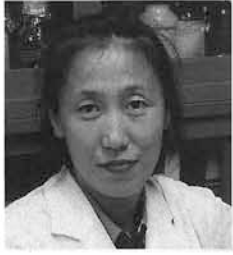
ホストファミリーとインターンシップ先の方々の温かいお心遣いのおかげで、レムゴでの滞在はあっという間に終わってしまった。3月26日にはお別れパーティが実施され、学生はそこでお世話になった方々に日本料理を作ったり、日本の文化を紹介したりした。3月29日の朝には、学生はホストファミリーにラーゲ駅まで見送ってもらい、泣きながら別れを告げた。その後はまた鈍行や快速でフランクフルト空港に向かった。同日の夕方に東京行きの飛行機に乗り、翌日には無事に日本へ帰ってきた。

インターンシップを組み込んだことで、新しい形の研修旅行にすることができた。企業、手工業の工場や教育機関で自習することによって、ドイツの日常生活やドイツの文化を深く経験しながら、ドイツ語を学習・習得することは理想的な学習環境であろう。学生がインターンシップ先からもらった証明書は、将来学生の就職活動に役立つと思われる。

来年のレムゴへのインターンシップ・研修の準備はすでに始まっているが、希望者の数は15人に増えた。今回は、準備期間が長くなって、何人かの同僚に協力して頂けることになった。10月4日の選抜試験のために、今年の6月から毎週勉強会を行なっている。希望者の全員が選抜試験に合格するよう頑張ってくれることを願うと同時に、この行事が長く続くことを期待している。

(言語文化研究院)

世界・日本



大学時代は人生のゴールデン歳月である！

ソウ
曹 宇

客員助教授として昨年12月に来日し、九大での研究生活はあと一ヶ月となりました。こちらでの研究成果をまとめるため、本当に忙しい毎日です。そんな折、同僚の柴田先生が一冊の《radix》を持ってこられ、“新入生たちに何か言いたいことを書いてくれないか”と言われました。その時、私は大学入学時のわくわく、ドキドキ、すがすがしい心境を思い出しました。夢と抱負を抱えて、燃え上がる青春の情熱はほとんどの新入生の姿でしょう。このようなあなた達と話しをすると、エネルギーと清新な感性を汲み上げるように感じられます。そこで、柴田先生からの依頼を喜んで引き受けました。じゃー、楽しんで書きましょう。

私の出身大学は中国東北地方にある中国医科大学です。当時は進学率5%の激しい競争でした、千兵万馬は一本橋を渡るという風景と比喻されました。ずっと憧れた大学に入学でき、誇り、満足するという気持ちもありました。あなた達もそう思ったことがあると思います。今はやる気満々で大学生活をスタートしたことでしょう。大学の教育スタイルが高校までと最も異なるところは、自由な面が多くなることです。学生自身の自主性を発揮する場が多く、もちろん、何もしなくても時間は過ぎますが、同じ4年あるいは6年間の大学生活ですが、知的な収穫は人それぞれです。大学では実習のレポートを出す以外、宿題なんかほとんどなく、いかにきちんと時間を活用していくかは自分しだいだと思います。ちゃんと時間を有効に利用できれば、4、6年間の大学生活には専門知識だけでなく、人文、社会など多方面の知識を獲得することができると思います。一般的に、大学時代は精力旺盛、記憶力に優れ、新しい知識を身に付ける最高の時期だと言っても過言ではありません。この人生のゴールデン歳月を大切に、たっぷり知識養分を吸収し、人生の事業の礎をしっかりと定めて下さい。その他、大学の部活動やサークル活動に参加することにより、人々と触れ合い、いろいろなことを体験し、充実した大学生活を過ごすようになるでしょう。

21世紀は情報量が膨大で、科学技術は日進月歩の発展をしています。その中で、大学での最も重要なことは個々の能力を養成することです。先生の講義では基本的な原理、法則などの紹介以外、科学研究の最先端の情報も紹介されます。知識そのものは勿論きちんと理解し、身につけなければなりません、同時にその科学的発見に繋がった哲学や講義の論理性、思考方法なども習うべきところがたくさんあります。大学の教育資源を十分に利用し、科学者としての科学的な思考、ユニークな着眼、鋭敏な才知を備えるように訓練しましょう。

さて、私は大学卒業後、同大学の教官になり、専門は生理学です。学生、先生と身分が変わるに連れ、それぞれの立場で、教育を受ける者と教育する者の意味を味わいました。教育者としての資質は大学全体のレベルに影響する重要な要因です。幅広い学術知識を授け、もしくは教授する内容のレベルを向上するために、専門的に深く研究することが必要です。また同時に、研究者としての資質も要求されます。学生においては、知識欲を十分に満足できるような立派な専門家（先生たち）が集まる大学学府で、いかに積極的に勉強するかによって収穫は区々です。知識を応用する場に至って、よく勉強してなかったと痛感することも良くあるでしょう。当然、勉強に関しては限りがありませんが、きちんと勉強したことは将来にプラスになることは間違いありません。

十年前に私は日本に留学できるチャンスをもらいました。長崎大学医学部に留学して、学位を取得しました。長崎で充実した豊富な留学生活を送り、沢山の思い出が残りました。大家さんの優しさ、国際交流塾で様々な人と出会い、日本の文化を学び、中国の文化を伝え、中日友好の掛け橋になるように頑張りました。研究の面で学術視野も広くなり、私の恩師一小坂光男教授は非常に優れた教育者、研究者で、研究者をよく育てる環境を作り、自由な発想で、十分な科学的検証をすることができるような研究条件を提供して下

世界・日本

さり、多方面の研究をやらせていただきました。研究に関する失敗も成功もすべて私の財産になりました。今回、薬学部の内海教授研究室に入りましたが、内海教授をはじめ、元気かつ向上心豊かな雰囲気が教室のいたるところに溢れています。教室員の興味深々、楽しそうに研究に取り組み、よく頑張っている姿を見ると、なんとなく感動を覚えます。この教室の一員になって、本当に幸運だと思います。短い在日時間ですが、内海教授に励まされ、教室の皆さんから協力していただいて、研究の目標に達することができそうです。

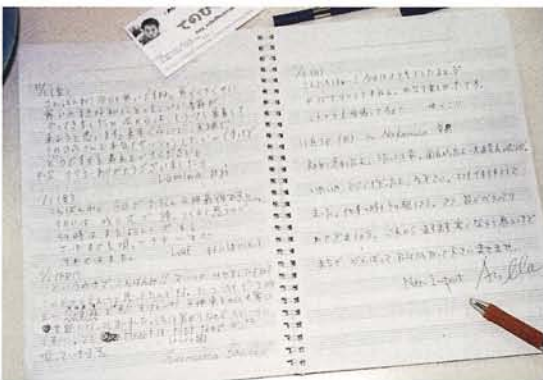
今までの歩んだ道を振り返って、やっぱり大学時代は人生のゴールデン歳月だと思います。元気で、やる気一杯、それに根気を養成し、本当の情熱と収穫のシー

ズンです。大学時代で養成された個性、生き方は未来の人生道に強く関わると思います。みなさん、“初心、忘るべからず”、貴重な大学時代に様々な知識をたっぷり満喫し、目の前の時間を大切にして、楽しんで過ごしてください。

この文章を書く前に、タイトル、サブタイトルを並べ、読みやすいように書いたほうが良いと助言されましたが、書き始めると、だらだらと一気に最後まで書き進んでしまいました。以上の内容は先輩としての私の体験と感想に過ぎません。その中の一言でも役に立てれば幸いです。

最後ですが、皆さんが九州大学の明日の誇りになれるようお祈り致します。
(薬学研究院)

(7頁のつづき)



お客さんに書いてもらっている出会いのノート

もうひとつは、学生時代の“宝”となる出会いは大学の内外を問わず、無限に広がっているということです。てのひらさんとの出会いは2002年8月に、大宰府天満宮で催された「全国ちんどん博覧会」にさかのぼります。同年6月に、彼が所属しているちんどん屋会社の方々の存在と、博覧会の開催を知った私は、博覧会記録係のボランティアを志願しました。新人フルーツ楽士として、同じく記録係として参加していたのがてのひらさんでした。私が記録係を願い出なければ、てのひらさんとの出会いはなかったことになります。ちょっとしたきっかけを大切にすることで、人の輪が広がっていくことを実感する体験でした。本稿を読まれた方が、路上ライブに出かけられることも、新しい出会いのきっかけとなるのではないのでしょうか。

来年度から社会に出る私ですが、これからも“自分らしさ”と“出会い”を胸に刻んでいきたいです。

(19頁のつづき)

合いや葛藤に満ちています。思うようにいかない壁や摩擦から、新たな可能性をもつ対話や自分がみえてくるという楽しい事態かもしれません。楽しいとまではいなくても、“思うようにならない”事態に少し留まってみてはいかがでしょうか。いよいよ後期が始まりますが、皆さんの大学生活は思うように進んでいますか。大学でやりたいと思っていたことが充実してやれていると言える人は、それなりの迷いや葛藤を経て今に至っているのだらうと思うのです。

さて、今回の話に近いようで異なる“思わしくない自分”を生きつづけていると、苦しさや矛盾を感じている場合は、むしろ、躊躇うことなく学生生活・修学相談室に話をしに来てみてください。解決の方向性はいったん保留にして、まずはどんなことが起きているのか、カウンセラーとの対話を通して考えていってもいいのではないのでしょうか。(学生生活・修学相談室)



努力を惜しまずにふだんから学ぼう

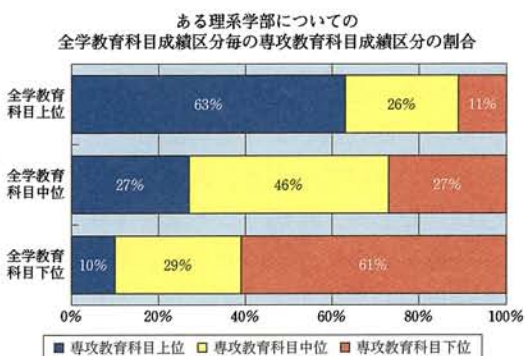
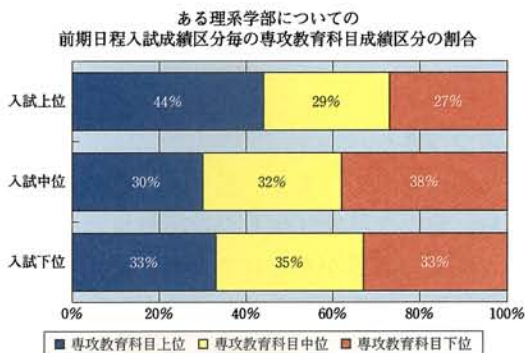
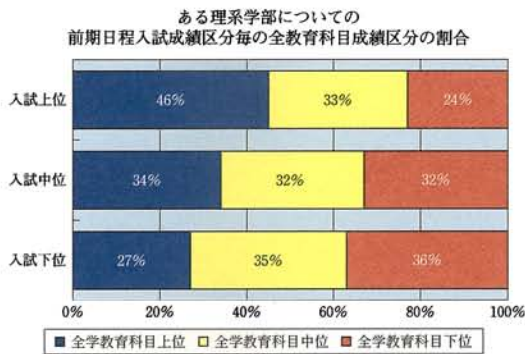
—基礎化学結合論の授業評価からの一つの結論—

ふちた よしお
淵田 吉男

はじめに

読者である学生さんに「科目を理解するには、ふだんからの地道な努力が必要である」ことを高等教育総合開発研究センターからお伝えしたいと思います。

まず、3つのグラフを示します。



これらのグラフは、ある理系学部の「入試の成績と全学教育科目の成績」、「入試の成績と専攻教育科目の成績」、「全学教育科目の成績と専攻教育科目の成績」との関連を示したものです。ここではグラフとしては示しませんが、文系学部についても、同じような結果が得られています。グラフから何が読みとれたでしょうか。

これらのデータは、次のことを示しています。入試の成績と大学での成績とは相関性がないこと、また低年次において、大学での学び方を会得したものは、高年次においても科目履修が円滑に行われるという2つの大きな事実です。大学に入り、努力を重ねるものが成功を収めるのです。地道な努力に基づいた自分なりの学習方法を早く見つけることが必要なのです。

では、その学習方法とはどのようなことなのでしょう。このことについて、以下に平成13年度前期と平成14年度前期に実施された全学教育科目・基礎科学科目Ⅰの「基礎化学結合論」に対する「学生による授業評価」の分析結果を示しますので、皆さんに「大学における学習方法」について考えていただきたいと思います。

1. これまでの経緯

平成13年度前期に実施された「基礎化学結合論」に対する「学生による授業評価」の結果が報告されました。(radix, No.32, p24-27, 2002年4月)そこには、アンケートに回答した725名の内、実に94%のものが授業の理解度に対して「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」と答えていたのでした。この結果を受けて、全学教育を担当する委員会は「基礎化学結合論の理解には、物理の履修が必要である」との観点から、高校で物理を履修していない学生も1年前期に物理を学ぶことを踏まえ「原則として、基礎化学結合論は1年後期に開講する」ことを提案しました。この措置は、本年度から実施されています。また、「科目の理解度は試験前には上がるのだ」という考えから、平成14年度前期に開講される基礎化学結合論に対し、期末試験時に「学生による授業評価」を実施し、授業終了時と試験実施時の理解度を調査する

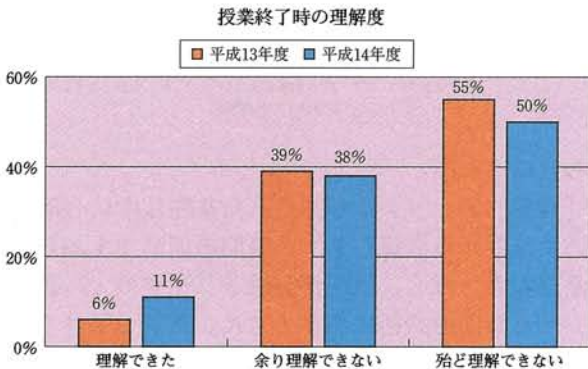
ことを求めました。これには、昨年度までは前期の期末試験が9月に実施されており、夏休みの間に理解を深めるための勉強時間がたっぷり取れるという背景がありました。

2. 平成13年度前期および平成14年度前期に実施された「学生による授業評価」の分析データ

「学生による授業評価」は、平成13年度前期では夏休み前の最後の授業時に、平成14年度前期では夏休み後の9月の定期試験時に実施されました。それぞれの回答者数は、725名と627名でした。授業評価では、科目の理解の程度を「かなりよく理解できている」、「ほぼ理解できている」、「あまり理解できていない」、「ほとんど理解できていない」の4項目としました。結果を見ると理解できている人の割合が少なかったため、ここでは「かなりよく」と「ほぼ」理解できているとしたものをまとめ「理解できた」として集計しました。

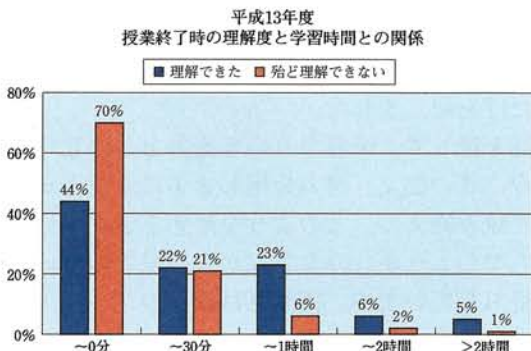
1) 授業終了時の理解度の比較

平成14年度では、「理解できた」とする割合が少し増えていますが、大幅な違いはないように思われます。

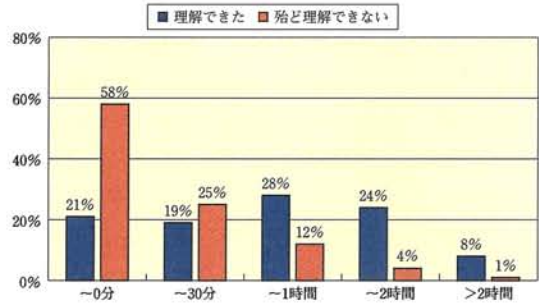


2) 授業終了時の理解度と1週間当たりの学習時間との関係

下と右上に示したグラフでは、「理解できた」とする人と「ほとんど理解できない」とする人の比較をしています。両年度を通じ、「理解できた」とした人の学習時間が「殆ど理解できない」とした人の学習時間



平成14年度 授業終了時の理解度と学習時間との関係

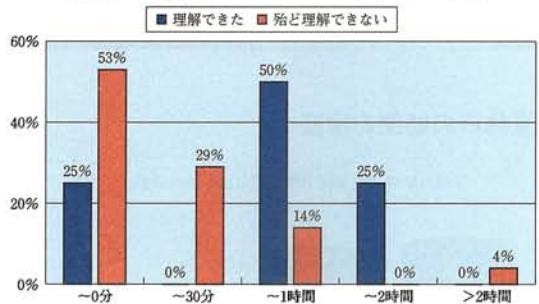


より多くなっています。グラフには示していませんが、学期中1週間当たり「ほとんど予習・復習などのために勉強をしていない」人が、概ね全体の半数(13年度, 57%; 14年度, 47%)もいることが大きな問題です。大学では2単位の授業に対し、予習や復習として授業時間の2倍の勉強時間を必要とする前提で授業の到達目標が設定されています。

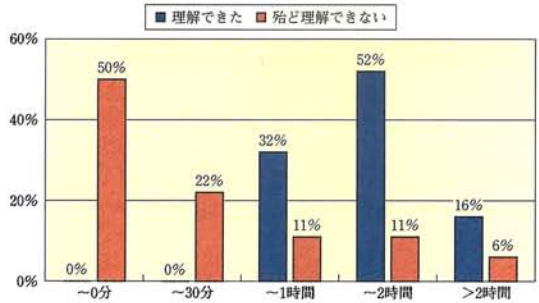
3) 理解度の最も良かったクラスにおける学習時間との関係

下に示したグラフから「理解度と学習時間との間には相関がある」ことがすぐに見取れます。理解できたとする人の学習時間は1時間ないし2時間のところにピークを持っています。

平成13年度 理解度の最も良かったクラスにおける学習時間との関係



平成14年度 理解度の最も良かったクラスにおける学習時間との関係



4) 高校での科目履修状況との関連

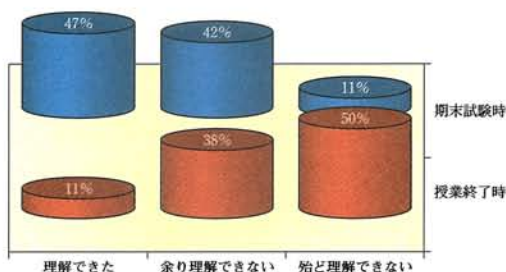
平成13年度前期の調査では、科目を履修する上で高校での学習との関連を求めています。「高校で物理を学んでいなかったため、授業内容を理解するのが大変

だった」, 「高校で学んだ物理の勉強が足りなかった
ので, 授業内容を理解するのが大変だった」, 「高校
で化学を学んでいなかったので, 授業内容を理解する
のが大変だった」, 「高校で学んだ化学の勉強が足り
なかったので, 授業内容を理解するのが大変だった」,
「高校での履修との関係で特に問題がなかった」とい
うのが質問内容です。これに対し602名が回答しまし
たが, 「問題なし」とした人は全体の51%, 残りは何
らかの「問題がある」としました。「問題あり」とし
た人は何に問題があったかを複数回答しています。そ
の内, 「物理の学習に関連がある」とした人は, 92%
(未履修54%, 勉強不足38%), 「化学の学習に関
連がある」とした人は, 37% (未履修10%, 勉強不足
27%) でした。しかし, 実際にはクラス毎で大きく変
化しています。大半の人が高校で物理を履修した工学
部のクラスでは, 約75% 「問題なし」と回答しまし
たが, 農学部では高校で物理を履修しなかった人のほ
ぼ全員が「高校で物理を学んでいなかったので, 授業
内容を理解するのが大変だった」と回答しています。単
純な判断では, 化学結合論を1年後期に開講するこ
とに意味があるように思えます。しかし, 下に示して
いますように「問題なし」と回答したものの, 「科目
の理解ができない」と回答している人が91%もいま
す。



5) 夏休みの効果の検証

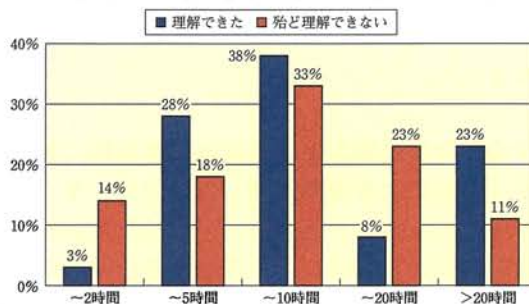
平成14年度 授業終了時と期末試験時の理解度の比較



平成14年度には授業終了後, 期末試験まで約2ヶ月
の夏休みがありました。その期間中にどのような変化
があったかを見ましょう。

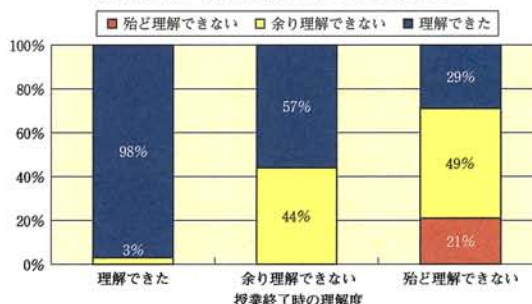
上のグラフから, 授業終了時と比べると理解度は期
末試験時に飛躍的に高まっていることがわかります。
また, 右上のグラフに示したように, 授業終了時の理
解度には関係なく受講者が努力して理解しようと努
めているのがわかります。しかし, まだ半数以上もの
人が「理解できなかった」と答えています。

平成14年度 期末試験等の理解度と授業終了後からの学習時間との関係



次のグラフは, 授業終了時での理解度が期末試験時
にどのように変化したかを, 授業終了時での理解度別
に示しています。授業終了時に「ほとんど理解できな
かった」とした人は, 大半が依然として理解度が低い
という結果が出ています。

平成14年度 授業終了時から期末試験時における理解度の変化



おわりに

「難解」のレッテルが貼られた基礎化学結合論がい
よいよ後期から開講します。後期の開講ですから, 授
業が終わると直ぐに試験が実施されますので, 復習に
費やせる時間的余裕はありません。ここで挙げてきた
データから理解して頂けたと思いますが, 慌てて勉強
したところでなかなか科目に設定された到達目標には
至らないのです。基礎化学結合論を理解するためには,
普段からその理解に努める必要があります。

また, 当然のことながら, ここで得られた結果は大
なり小なり全ての科目に通じることです。基礎化学結
合論に限らず全ての科目に対して, 普段からの努力を
惜しまず学んで欲しいと願っています。以上が皆さん
への要望です。勿論, 教える教員の側にも問題はたく
さんあります。ここでは敢えて, 学生の皆さんへのお
願いだけを記しました。

本誌を借りて, 筆者なりの考え方をしめしてしま
した。今, この拙文「努力を惜しまずにふだんから学ば
う」を読み終えて, どのような感想を学生の皆さんは
お持ちでしょうか。みなさんからの忌憚のない御意見
をお待ちしています。御意見は以下のメールアドレス
をお願いします。rdche@mail.rche.kyushu-u.ac.jp

思うようにいかないのは楽しい, かな?

～学生生活・修学相談室カウンセラーからのメッセージ～

たなか たけお
田中 健夫

“思うようにいかない”ことが、私たちの周りには溢れています。相談室のガイダンスやカウンセリング面接で語られる話題は、どれも日常の思うようにいかない事柄に関わっているようです。

たとえばこんな内容です：時間の都合がいい（時給も高い！）バイトに応募するものの面接に落ち続けてちっとも生活の見通しがたたない。試験がうまくいかなかった（“アトノマツリ”ですね）。就活が進まず取り残された感じがする。家族とのことが思うようにいかない……などなど。話し合っていると、とてもつらいだろうと想像される場合から、しょうがないと諦める（断念する）のも人生よ、と言いたくなるものまでさまざまです。また、自分で取り組んで解決すべきものから、努力してもどうにもならない自分のこと、そして相手のあること、という違いもあります。好きな人に振り向いてもらえないとき、正面から努力すればするほど深みにはまって関係はますます悪化……というようなことは、よくあることですね。

◆努力してもどうにもならないこと

うまくいかないのは、努力が足りないからだ（“ドリヨクスレバナンデモカイケツ”）という幻想に私たちは囲まれています。果たしてそうでしょうか。このような幻想から自由になるのは難しいものですが、「それって本当に努力不足という問題なの？」と、まず疑ってみるの意味は十分あるでしょう。

少し前に出版されて話題になった本：『肉体不平等』（石井政之、平凡社新書）では、努力ではどうにもできない容姿や外見が扱われています。プスや醜男は不幸かと問い、「私たちはみんな『五体不満足』である」「身体コンプレックスを飼い慣らす」と語りながら、ファッションからプチ整形まで話題は縦横無尽に展開しています。人間には、肉体という不自由な「場」から一歩も出れない不自由さがある、という事実から出発して、生身の身体とのふれあいや自分の身体の可能性に賭けること。どうやら多くの人にとって大きなテーマに行き着くようです。

◆相手がある“思うようにいかない”こと

話は、相手があることに移ります。

こんな、簡単な実習を英国と日本でやったことがあります。「ペアになり一本のボールペンを二人で持って、一枚の紙に“理想の家”を描いて下さい。ただし喋ってははいけません」というものです。これは、想像したら簡単に分かるかと思うのですが“不可能な課題 impossible task”であり、うまく描けなかったり、少なくとも葛藤が起こるはずなのです。実際、英国で行ったときには、ペアが互いに譲らずにほんの2cm位の線しか描けなかったり、二人の最大公約数の、つまりは、ひどく貧弱な家しか描けなかったりしました。

それが日本の会社のある新人研修でやってもらったときには、どうでしょう！ 私の説明が終わるとすぐに描き始めて、あるペアは庭に花咲く素敵な家を、別のペアはガレージ付きで格好いい車がある大きな家を、また別のペアは家の中の家具を細々と、それぞれに理想の家を描ききったのでした。終了後に感想を聞くと「自然に（交互に）相手に譲った」とのことで、相手のある思うようにいかない事態は、うまく避けながら解決されていました。

この実習は、思うようにならない事態に入り込んだときに起きてくる様々な感情—無力感や怒り、葛藤や勝利感など—を探索することであり、このシンプルな実習からも意外に豊かな素材が引き出せるはずでした。ところが“実習にならなかった”のです。思うようにならない事態が、しっかりと形づくられることがなかった—これは、人の気持ちに合やすことのできるセンスや能力だと肯定的にとらえられるかもしれませんが、自分を譲ってしまうことへのあまりの抵抗のなさは、考えたり感じることを、ある瞬間にパッと止めて、思うようにいかないことを見ようとしていないかのようでもあります。

◆ぶつかり合ってみること

しかし現実の人間関係は、生き生きとしたぶつかり

(15頁へつづく)

学生による授業評価 **Feed Back**

「情報処理基礎演習」(平成14年度後期) について

レポートを電子メールで

情報処理基礎演習の履修が終わる頃に、PCを文書作成に利用できないのはほんの1.9%、Web検索ができないのは0.5%でした。7.6%が電子メールを利用できないと回答していますが、2年次生からは、数式や記号を用いなくてもよいレポートは電子メールによる提出としても大丈夫だと判断できます。電子メールで提出されたレポートは、そこに書かれた質問や問題提起を履修者間の共有資料として活用するにあたって加工が容易ですから、授業を双方向のものとし、また授業内容の理解を深めるための鍵を握っているのです。

もっとも、これらを「ほとんど問題なく利用できる」者の割合は、履修者の所属学部を反映しているのか、授業クラスによって大きな差がありました(電子メール:39.1~89.5%、Web検索:54.2~94.7%、文書作成:45.8~84.8%)。この差は、学部によって情報処理の能力が異なるからではなく、自分のPCを所有している者や日頃から活用している者の割合が、低年次だと学部によって異なるからかもしれません。

プログラミング

全体としてプログラミングが「授業で学ぶレベルでできる」が50.1%で、「授業で学ぶレベルが十分できるとは言えない」が47.2%でした。将来、プログラミングが必須になる者もいますが、そうでない者にとっても、授業で作成したプログラムをファイルに保存して活用できる(91.0%)ところまで体験することによってプログラミング概念をもっているかどうかの違いがプロジェクト・チームのメンバーとして参画する仕事に大きな影響を与えようと思えます。

予習と復習

実験授業にも共通しているのですが、情報処理基礎演習の授業で「予習をきちんとした」は「予習する必要がないほど理解している」を合わせて9.7%にとどまりました。課題が与えられるからでしょうか、「復習をきちんとした」は「復習する必要がないほど理解

している」を合わせて29.0%でした。予習がなされるなら授業のレベルが「レベルが高すぎるので下げてほしい」の36.6%と、授業における「説明の仕方に不満を感じている」の29.5%が減少するのではないかと思えるのですがどうでしょうか。



授業改善への提言

14.4%がTAに質問できなかったのはなぜでしょうか。78.0%が質問したTAの対応に満足していますから質問をしやすくする工夫を考える必要があります。

ある程度できるとの回答がなされた情報処理操作は、高い順に、表計算ソフト(41.7%)、ファイルシステムの利用(23.6%)、Webページの制作(13.3%)、プレゼンテーションソフトの利用(12.5%)、コンピュータ利用による統計データ処理(5.7%)でした。いずれも利用者それぞれに独自の活用となりますから、基本操作を習った後は体験的な自学自習が効果的です。情報処理基礎演習で培ったスキルを少人数ゼミで向上させるなど他の授業とのつながりを検討し、またインターネットアクセスのマナーと著作権についての知識を教わりたいという要望にも応える必要があります。

- 1) 実施期間：平成14年度後期の授業期間中最後の2週間。
- 2) 実施対象：平成14年度後期に開講された「情報処理基礎演習」の18授業クラスの1,082名
- 3) 回収率：履修登録者数(1,082名)に対する回収総数(369枚)の割合は34.1%。

(高等教育総合開発研究センター)



素朴な疑問

あきやま りょう
秋山 良

専門は化学物理で、溶液や生体分子を舞台とした化学反応等に特に興味を持っています。量子力学と統計力学が私の道具で、理論的なアプローチをしています。

九大には、2003年3月に着任しました。六本松のキャンパスを初めて踏んだのもその時です。その前は、ニューヨーク州イサカにある大学でポスドク（博士研究員）をしておりました。学位を取ってから、6年以上ポスドク、非常勤講師等の任期付きポストを5つ程渡り歩いていたので、今回はじめていわゆる定職についたという事になります。

それぞれの場所で学ぶものがありました。イサカにある大学では、『人間、いくつになっても、何でも学べ。』と、言われ続けている様でした。もちろん下手な英語もそうなのですが、それ以外にもあります。オランダから来ているポスドクは、紫式部を話題にし、アメリカ人の教授は、ヨーロッパの古典を語る。帰り道が同じになれば、あたりにいる鳥や虫の話が話題になる…といった具合です。日本人のポスドクは下手な英語で音階について話すのでした。もちろん日常的話題の中心は、化学と物理でしたが。化学の講義に、しばしば異なる分野の研究者が紛れ込んで勉強している光景も印象的でした。

私がいい加減でも日本の古典をかじらされていた御利益の一つには、意外にも異国において巡り会ったわけです。しかし、もし『GENJI』についてまるで知らなければ、その日のランチは、記憶から抹消され存在しなかった事になっていたでしょう。必須ではない教養の御利益は、学ばなかった者には永久に認識できない物のようです。ところで、もし科学を学ばなかったら、この豊かな世界は私にどのように見えたのだろうか？これが最近よく心に浮かぶ疑問です。

(理学研究院)



ご挨拶

おかだ よしこ
岡田 佳子

7月1日より助手に着任いたしました。九州に来たのはこれが初めて、職に就くのもこれが初めてで、初めてづくしの中で戸惑うことばかりですが、新しいことに触れられる楽しみを日々感じています。

福岡にやって来て実際に住んでみると、生まれ育った札幌と似ているような印象があります。福岡と札幌のもつ街の雰囲気や、九州人にとっての夏の過ごし方と、北海道人にとっての冬の過ごし方とが近いような気がするのです。今も、ことあるごとに降る雨を見て、雪ばかり降る北海道の冬を思い浮かべたりしています。

この度着任した21世紀プログラムは、以前から強く関心をもっておりました。これまで、学士段階の学際的カリキュラムに関する研究を進めてまいりましたので、学生自身の手で自らの専門性を形作る、という日本ではまれにみる高い学際性をもつ21世紀プログラムの運営にかかわることができてとても幸せに思っております。プログラムの学生さん達はみんな元気で優しく、よき妹、弟ができたような気持ちです。

そのように、現在は研究と実践とが一体化しているというとても恵まれた環境にあります。この環境を活かしながら、研究と実践とを両者共に前進させていければと考えております。

何しろ、学部を越えて学ぶ、というプログラムの性質上、これから様々な学部の先生、職員の方々にお世話になることと存じます。ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、どうぞご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

(高等教育総合開発研究センター)

新任教官自己紹介



Let Me Introduce Myself

Paul Westrick

My name is Paul Westrick, and I am from Toledo, Ohio in the United States. Please let me tell you about my education, work experience, and interests.

My educational background is in two fields, History and Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL). As an undergraduate, I attended the University of Toledo, a public university in my hometown. I earned my bachelor's degree in History in 1989, and I returned to the University of Toledo in 1992 as a graduate assistant in the Department of History. My area of specialization was United States history, with special emphasis on the history of the Trans-Mississippi West and Native Americans. My research work was on the Wyandot Indians in Ohio, their attempts to assimilate into white society, and their later decision to cede their lands in Ohio in exchange for land west of the Mississippi River. After receiving my M.A. in United States History, I earned my second M.Ed. in TESOL from Temple University Japan.

I began teaching English in 1995. I started by teaching at an English conversation school, and later accepted a full-time position in the Faculty of International Studies at Hagi International University in 1999. In 2000, I began teaching part-time at Kyushu University, and I accepted a full-time position here in February 2003.

As a language teacher, reading and vocabulary acquisition are subjects that interest me because their close relationship. Students have often asked me how they can improve their vocabularies, and I tell them they should do extensive reading. Word cards are wonderful tools for getting a basic understanding of new words, and I strongly encourage students to use cards, but I believe encountering those words repeatedly through extensive reading solidifies a learner's understanding of those words, particularly the

slight differences words have in different contexts. It also helps learners gain an intuitive knowledge of collocations and grammar.

I consider extensive reading an excellent form of self-study for Japanese students. Students have only so much time in the classroom, and they need to work on their own if they want to improve. I think extensive reading is the best way for learners in Japan to get the amount of contact with English they need to improve, and students generally find reading English books written at levels at which they understand almost everything they read a pleasurable experience.

In regard to my research interests, in addition to reading and vocabulary, I am interested in norm-referenced and criterion-referenced testing. I am currently involved in two projects. The first is a set of vocabulary tests that I have been developing and revising for the past four years. The other project is the evaluation of a commercially produced English proficiency test. In the future I intend to study the application of Rasch analysis to language testing.

(高等教育総合開発研究センター)

図書館に目安箱を設置

教務掛カウンターの隅にひっそり佇む「意見・要望ボックス」、通称「目安箱」。学生の皆さんの意見や要望を受けつけるため平成9年に設置されてから、様々な声を聞いてきました。

この「目安箱」が4月から図書館(六本松分館)の入口(喫煙室の横)にも置かれています。

「ちょっとひとこと言いたいんだけど、教務のカウンターじゃあ書きにくいし、ボックスにも入れにくいし…」 「誰が投函したかわかってしまう。」等々、利用したいんだけど利用できないという人や、もっとたくさんの人に利用してもらうため、設置場所を増やしました。

これまで同様、全学教育に関して気づいたことがあったら、どしどし意見をお寄せください。

また、責任ある対応ができるように、学部・学年・氏名などはできるだけ記載してください。皆さんのたくさんの声をお待ちしています。

(全学教育事務室)



自己紹介

か い ば ら こ ず え
甲斐原 梢

4月より箱崎から六本松に研究室を移して、気が付いた事は、一日何度となく頭の上で響いていた飛行機の騒音の酷さと、知らずに感じていたストレスでしょうか。測定機器の引越しや配置に汗を流していた事もあって、桜の花は楽しみ損ねてしまいましたが、先ずは快適な静かさを大いに楽しんでいるところです。

イオン交換膜等の人工膜、神経細胞や筋細胞膜の透過現象の熱力学理論と測定を続けて来ましたが、最近では、弾性線維蛋白質の構造・物性・機能についても調べています。このエラスチンと呼ばれる蛋白質は、化学進化実験で類似の物質が生じる程に原始的な蛋白質ですが、我々の身体の弾性組織、動脈壁、肺胞、皮膚等の弾性機能を支配しており、細胞外マトリックス成分として、コラーゲンに次いで多量に存在します。特に加齢や病的原因に基づく大動脈壁のエラスチンの機能低下は、いわゆる動脈硬化症として、我々の寿命を決定する大きな要因となっています。原始蛋白質としての特性を有し、胎生初期から機能を発揮する、言わば下等な蛋白質が、我々の生命体としての機能を果たしているのは、不思議に思えます。

趣味と言え程のものはありませんが、近所の方に誘われて始めたのは「五行歌」、新聞紙上に掲載されたり、天神イムズや福岡アクロスで展示会が開催されているので、御存じの方も多いかもかもしれません。口語で五行に呼吸良く整えれば良いと言う制約だけの、伝統的な短歌に較べて取っ付き易いものです。興味のある方には、同人誌や福岡市だけでも十を超える歌会が開かれていますので紹介致します。(理学研究院)



自己紹介

キム ス ジョン
金 秀晶

言語文化研究院で朝鮮語を教えている金 秀晶と申します。九州大学へ来る前に私は九大の学生が非常に優秀であると聞いていました。九大も有名な大学だと聞き大きな期待を持って来ました。

私はソウル出身で、ソウル大学で国語教育を専攻しました。博士論文は外国人のための韓国語教育をテーマにしました。今年の2月に博士号を取得しました。

私はソウル大学の言語教育院で4年間韓国語を教えました。同時にボランティアでUNESCOと建国大学で外国人に韓国語を教えたこともあります。

韓国語能力試験の評価基準、韓国語教師のための指導書、外国人のための韓国語教材、韓国語教師を対象にした研修プログラムなどを開発しました。韓国の小学校の教師のためのマルチメディア資料も開発しました。今は、韓国語のインターネット上の遠隔教育に関心があります。

以上の私の教育経験が九大の学生の朝鮮語の授業を楽しく魅力あるものにするに役立つことを願っています。(言語文化研究院)

新任教官自己紹介



出でよ，国際 協力の現場へ

こまつ たろう
小松 太郎

今年の3月まで，私はボスニア・ヘルツェゴヴィナ国という紛争で荒れ果てた地で開発復興援助の仕事をしてきた。昨年秋，コソヴォ国連暫定統治の仕事を終え，ボスニアに移った時はまさか数ヶ月後に日本の大学で仕事をしているとは想像もしなかった。九州大学で仕事を始めて2ヶ月が過ぎるが，自分はどこにいるのか時々わからなくなることがある。街を歩いている時，建て替えのために半壊した建物をみると迫撃砲で被弾したのかと一瞬思ってしまう。

言語文化研究院では将来，開発援助に貢献する人材を養成する大学府を設立する計画がある。開発援助・貧困撲滅は人道的な見地からだけでなく世界平和のためにも急務である。国際協力において様々な技能を持つ日本人が貢献できる場面は多い。また，国際協力の仕事に興味を持つ日本人も多い。将来，多くの優秀でやる気のある日本人が開発援助そして世界平和に貢献してもらいたいという願いから，新しい大学府の設立準備を手伝わせていただいている。

新しい学府は，既存のマクロ経済開発系の大学院と一線を画し，貧困層を対象とした教育，人的開発，保健・医療，環境，といった社会開発分野をその主眼とする予定である。こういった分野はまさに現場での仕事である。また，従来あまり取り上げられなかったアジア諸国との開発援助連携・協力の可能性も模索する。このような独創性を持った学府は，志ある日本の若者たち，そして日本の国際平和貢献にとって有意義なものになると信じる。

国際協力に興味を持つ学生は，私の研究室（本館6階10号室）に気軽に立ち寄っていただきたい。進路等のアドバイス，また国際協力について何でも話をしたいと思う。
(言語文化研究院)



ごあいさつ

すぎやま よしお
杉山 佳生

平成15年4月1日付けで，鹿屋体育大学から九州大学健康科学センターへ赴任いたしました。物理学の研究をしたいと京都大学理学部へ入学し，「主として生物科学を修めた」と記載された証書をもって卒業，その後なぜか筑波大学大学院体育科学研究科に進み，南九州の体育大学を經由して，ここ九州大学に辿り着いた次第です。

私が専門としているのはスポーツ心理学です。もちろん，一流スポーツ選手の競技心理も扱いますが，日々のスポーツ活動や我々を取り巻くスポーツ文化がどのような心理的意味を持っているのかも研究対象としています。さらに，世界各国で行われているスポーツはその国の人たちの心性に多大な影響を及ぼしていると考えられることから，スポーツと異文化心理との関係にも関心を持っています。

たとえば，英連邦の国々で盛んに行われているクリケットでは，「century」という言葉がしばしば用いられます。1人のバッターがアウトにならずに100点を取る（あるいは，チームが100点を取る）を意味しており，英国人であれば，たいていは，賞賛すべき出来事であると理解できるのですが，普通の日本人には，おそらく全く意味のわからないことだと思います。多くのスポーツの発祥の地とされている英国では，このクリケットだけでなく，スノーカーやゴルフ（テニスもそうかもしれません）などといった一試合に何時間あるいは何日もかかるような，精神面での耐久力を競うスポーツが人気を博しています。このような事象を通して，英国文化や英国の人々を理解するのも楽しいことではないかと思ひますし，また，有意義な国際交流へとつながるものと考えています。

六本松では，健康・スポーツ科学科目を担当しています。今後とも，スポーツ文化共々，よろしくお願ひいたします。
(健康科学センター)



終わりのない 開発研究

そえじま ゆうじ
副島 雄児

この記事では「自己紹介」をするよう申し受けています。自己紹介といえは趣味や特技を披露するのが普通ですが、不幸にも、私にはさし当たって特筆すべき趣味も特技もありません。しかし、これから趣味を探し特技を身につける可能性がゼロではないということでは大変幸福な立場にあります。このような私にもこれまでの経歴というものがありますので、ここでは簡単な経歴紹介をもって自己紹介に代えます。

高校生の頃から化学と物理に興味を持ち、大学では高分子化学を学び、大学院以降は物性物理学を専門としました。なぜ化学と物理を学びたかったかと言うと、原因と結果を一本の線で結ぶような単純明快な思考しかできない人種だからだろうと想像しています。すなわち、人間の心が織り成す歴史や文化、多数の要因が絡み合う社会や経済、規則よりも例外の方が多いと感じられる言語などは、とても私の手に負えるものではないということです。

高研センターへは理学研究院物理学部門から異動しました。一般的には不連続な変貌と受け取られると想像しますが、無趣味・無特技の私にとりましては、逆説的には、意義を理解できる対象であれば何にでも取り組める自由度があったといえます。したがって、私自身の中では、物理学部門から高研センターへの連続的な移行が進行しつつあります。

高研センターでの主な任務は21世紀プログラム課程の開発研究となります。もし将来的にこの開発研究が完了できるとすれば、それは21世紀プログラムが固定されたコースとなってしまうことを意味しています。新世紀における社会的動向に揺られながら、常に新しい教育形態を探る「終わりのない開発研究」への一歩を踏み出したと感じているところです。

(高等教育総合開発研究センター)



ごあいさつ

むらかみ きそう
村上 貴聡

4月16日付で、高等教育総合開発研究センターの講師に着任いたしました村上貴聡です。「スポーツ科学」の1分科学である「スポーツ心理学」が私の専門です。授業は健康・スポーツ科学を担当しています。普段は本館1Fの体育相談室にあります。

さて、昨年の日韓共催ワールドカップでは日本代表が活躍し、多くの国民が釘づけになりました。また、来年はアテネオリンピックを控え、多くの競技種目でメダルの獲得が期待されています。こうした種目における競技力の向上には、医科学的なサポートが背景にあると言われていています。スポーツの試合で実力を発揮するためには、技術、体力とともに精神力などの心理的な要素が重要なことは周知の事実です。選手が優れた技術や体力を習得していても、それを十分に発揮するための精神力がともなっていなければ、実力を発揮することは困難なことです。そうしたことから、選手がどうしたら試合での実力発揮を高めることができるのか、ということに興味を持って研究に取り組んでいます。

スポーツにおいて、自分の目標を達成する(成功する)選手は、ほとんどが向上心を持ち、練習だけでなく何事にも前向きかつ積極的で、競技力向上を目指してひたむきな努力をしています。スポーツ選手が本来持っている考え方(やる気)を生かしながら、「心理面を強化する」ことで彼らの目標を達成させてあげたい、心理面の才能や素質を伸ばしてあげたいと考えるようになりました。そこで、日本スポーツ心理学会公認の「スポーツメンタルトレーニング指導士補」という資格を取得し、スポーツ選手に対してメンタルトレーニングを行っています。メンタルトレーニングの目的は練習でできることを試合で発揮できる確率を高め、その確率を安定させることです。幸いにも精神面は技術や体力と違って、何歳になってもトレーニングすれば伸びると思います。

興味がある方はぜひとも体育相談室を訪ねてください。よろしくお願い致します。

(高等教育総合開発研究センター)

新任教官自己紹介



私の大学生時代

ゆあさ ひさとし
湯浅 久利

5月16日(金)に着任し、この原稿を書いている時点では2ヶ月が経とうとしています。所属部署である高等教育総合開発研究センターの位置付けや性格を感じ始めたのはつい最近です。精神面での教育やケアについて先輩方から研究報告を耳にして、学生のためになることを多角的に考え行動していこうという雰囲気が強く感じられたのです。大学には入ったけれど自分の期待していたものとは違う、周囲の学生の勉強への取り組み方が納得できないなどの感情を抱いた学生に関する内容でした。

実は自分もそのような経験をした大学生のひとりでした。誰かと話し合えるような雰囲気ではなかったからなのか、自分の中で解決・解消し自分なりの答えを出した覚えがあります。しかし解決・解消に至るまでには時間と費用がかかりました。恥ずかしい話ですが、大学最初の年は前期試験を殆ど受けず必然的に留年しました。自分は大学に対して期待し過ぎていたことに気づき、周りの学生の雰囲気に流されず、授業だけに依存することなく自分の感覚で大学生活をやって行くしかないと思うようになったのです。人から伝え聞いたことでも、実際に自分が体験してみたら全く違ったということはよくあることでしょう。結局自分は自分であって、周りの環境に合わせも所詮うまくは行かないことの方が多いような気がします(自分がマイペース型の人だから余計にそう思うのかもしれません)。これは、研究や仕事で結果を出さないとならないときでも同じだと改めて感じています。色々な悩みを持っているかもしれないみなさんにも大学生活の中で自分で考え行動し自分に合った解決方法を見つけ出せるようになってもらいたいと切に望みます。

以上は、自分の経験を踏まえ学生のときを振り返り、みなさんに伝えたかったことなのですが、私の仕事内容を簡単に知ってもらいましょうか。私の研究室は1号館123号室になります。2階のLL教室の隣ですね。1号館3階にある131, 134, 135番教室のパソコンのシステム管理が主な仕事になります。他にもウェブや

メールなどのサーバを管理する義務もあるのですが、全学教育のホームページ特にクラス交流システムのサーバ管理も私に委ねられています。サークル関係のWebサーバ(RCWeb)管理もそうなのです。みなさんとは授業で直接関わるということはありませんが、パソコンやウェブページなどが仲立ちになってみなさんの役に少しでも立てればと思っています。

(高等教育総合開発研究センター)



ユネスコで過ごした9年間の生かし方

やました くにあき
山下 邦明

ブッシュ・アメリカ大統領が、昨年秋の国連総会で表明したように(イラク問題の影に隠れてあまり話題にはならなかったが)、今年10月にアメリカが19年ぶりにユネスコ(国連教育科学文化機関)に復帰してくる。私は、その本部事務局(フランス・パリ)で3月までの9年間勤務し、4月1日付けで九大に奉職した。

国連専門機関で働く、いわゆる国際公務員の日本人はまだまだ少ない。国際公務員の国別割り当て数は、その国の分担金比率に基づいて決められており、アメリカについて世界第二の負担国である日本はかなりの数を送りこめる立場にあるのだが、現実には寂しい状況だ。

言語文化研究院が、すべての学部1, 2年生を対象に行った「国際協力分野での人材育成をめざす大学院に関心がありますか?」というアンケート結果を見ると、文系理系を問わず高い数値を示している。それは、国際舞台で活躍する日本人の数の少なさにも関わらず(それゆえにこそ)、やる気のある青年たちが数多くいることは勇気づけられる。

私が九州大学に奉職したのは、そういう青年たちのやる気を、語学や異文化理解力、専門知識などを理論と実践を通して「日本国内で」育て、近い将来、国際機関に送りこみたいと思ったからに他ならない。福岡という「アジアの玄関」の地を生かした「国際協力のための大学院」の実現には、まだまだ高いハードルをクリアしなくてはならないが、やりがいのある仕事だと思っている。(言語文化研究院)

表紙写真説明

おうち うどの
相知町鵜殿窟の石仏

あんどう たけし
安東 毅

写真は、佐賀県の相知町にある鵜殿磨崖仏群の一つで、大日如来の小振りな石仏である。

九州北部の磨崖仏は大分県に多いが、唐津市の南にある相知町にも大日如来だけでなく、十一面観音や多聞天、持国天など大小50有余体の鵜殿石仏群がある。

この鵜殿石仏群は、唐で密教を学んだ空海（弘法大師）が、帰朝した大同元年（806年）この地に立ち寄り、大洞窟内に釈迦、弥陀、観音の三尊を刻まれたのが始まりと伝えられている。他の石仏のほとんども、それ以後30～40年平安時代初期に彫られたものらしい。

なお、830年代には洞窟内に鵜殿山平等寺が建立されたが、その真言密教の法窟も天文の戦火（1530～40年代?）で焼失、その後に大洞窟も崩壊して、今では

密教の色濃い石仏群のみがかったの仏教文化を偲ばせてくれている。なかでも崩れかかった石窟の中央にある、多聞天や持国天などはベンガラ朱色がまだの遺っており、保存状態も比較的良い。

写真の大日如来仏は真言密教では最高至上の絶対的存在とされているが、顔はかなり摩滅して定かではない。しかし、胸や両腕などはふっくらとした曲線で描かれており、顔もおそらくは柔和なものではなかったかと想像される。また、その右の暗い部分は「大日教」に基づく胎藏界を象った洞穴で、写真ではよく分らない、その中にも5体ほど仏像が彫られている。

(九州大学名誉教授)

六本松探検

プロジェクト シラバックス

徳永 翔・安武久美子…2

掲示板大調査……………清尾 景子…4

金曜・天神ナイトライフの一提案…松浦 篤…6

第47回 田島寮寮祭…永山 由高・山田 英道

妹尾 昌尚・田口 晃樹…8

サークル紹介 29

ワークキャンプ…新川 裕介・安部 英輝…10

軟式野球部……………今村 信也…11

世界・日本 17

初めてのドイツ・インターンシップ研修

Andreas Kasjan…12

大学時代は人生のゴールデン歳月である！

曹 宇…14

努力を惜しまずふだんから学ぼう…淵田 吉男…16

思うようにいかないのは楽しい、かな？

田中 健夫…19

学生による授業評価 Feed Back

高等教育総合開発研究センター…20

新任教官自己紹介 秋山 良・岡田 佳子…21

Paul Westrick…22

甲斐原 梢・金 秀晶…23

小松 太郎・杉山 佳生…24

副島 雄児・村上 貴聡…25

湯浅 久利・山下 邦明…26

投稿・写真歓迎

編集委員会では radix への投稿、紙面を飾る写真を募集しています。あなたが関わっている様々な活動、六本松地区や「全学教育」にまつわる出来事、六本松の思い出など、六本松や「全学教育」に関するものであれば何でも結構です。

表紙写真も、キャンパスでのもの、旅先でのものをはじめ、あなたの作品、ぜひ紹介したい知り合いの作品など、広く募集しています。応募、推薦の対象は六本松や「全学教育」に関わりのある全ての方です。

radix 学生モニター募集

編集委員会では radix に対する学生の意見を・要望を聞くためにモニターを募集しています。また学生編集委員も募集しています。募集は常時行っています。

投稿、写真、モニターのお募りは下記で受け付けます。

- | | | | |
|------|---------------------|--|-------------------|
| 編集委員 | 飯野 治 (事務部 ☎4504) | 内田 雅之 (数理 ☎4785) | A.カスヤン (言文 ☎4666) |
| | 辛島 正雄 (人文 ☎4718) | 小山 紘三 (高研セ ☎4585) | 佐藤 廉也 (比文 ☎4580) |
| | 柴田 攻 (薬学 ☎91-6669) | 高柳 茂美 (健セ ☎93-7857) | 田中 健夫 (高研セ ☎4802) |
| | 松崎健一郎 (工学 ☎99-3431) | ※局番の無い電話番号は六本松地区です。他地区から電話をする場合には頭に局番98を付けてください。 | |
| 企画掛 | ☎4525・4526 本館1階西側 | | |



雷山 千如寺

撮影 安東 毅

あ	と	が	き
---	---	---	---

先日、再上映されている「戦場のピアニスト」を観ました。ご存じの人も多いと思いますが、第2次世界大戦中のユダヤ人ピアニストの体験を映画化したものです。親戚にユダヤ人警察の人がいたため、命を助けられ、その後も数々の危機的状況をくぐり抜けたのですが、まさしく神が歴史の生き証人として、彼を選んだのではないかと思えるような、過酷かつ印象的な内容でした。なかでも思ったのは、絶望的な状況にも関わらず生き抜くことができた理由として、運の良さもさることながら、ピアノへの深い思いがあったのではないかということです。ピアノをひくイメージを思い浮かべるシーンは、BGMの美しい音楽と共にとても感動的でした。

深い意識・魂につながる「何か」を心の奥底にしっかりと持っている人は、人生を送る上で、とても強くなれるような気がします。(TS)

たとえば、ソウゾウシイということば。

講義を始めようとしても教室がわいわいがやがやしていて、つい「うるさい！」と怒鳴りたくなるような状況——がそれですね。ところが同じソウゾウシイでも、『源氏物語』などではまるきり別の意味になってしまう——と、これくらいは受験常識の範囲。

ならば、「愛」はいかに。

われわれの身のまわりにあふれかえるこのことば、じつは古文にもちゃんと出てきます。とくに『今昔物語集』は〈愛の宝庫〉です。ただし、そこでの「愛」は対象への自分本位の執着を表し、仏教の立場からは否定されるべき煩惱のひとつでした。

さて、愛は地球を救う？ 愛国心？ 現代の「愛」は、かつての自分本位を克服できたのでしょうか。

(hot-island)

radix (ラーディクス) No. 36 (九州大学全学教育広報)

発行日 2003年9月26日

発行所 九州大学高等教育総合開発研究センター

〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 726-4525・4526 (企画掛)

FAX (092) 726-4530